

I 瀬戸のいま



1 瀬戸とは

■ 「ものづくり文化」と「里山」に育まれてきた やきもののまち

愛知県瀬戸市は自然と共生しながら育まれてきた「ものづくり文化」とやきものづくりと深く関わってきた「里山」によって、創られてきたまちです。

瀬戸のものづくりは、「人」だけで築きあげてきたのではなく、この地にしかない良質な土や森、山、川があったからこそ、窯が築かれ、まちを形成し、職人たちの手により世界的にも例を見ない千年以上も連続と続くやきものづくりが生まれ、「せともの」はやきものの代名詞になりました。

瀬戸のものづくりは、自然と共生し、自然の豊かさを再認識する中で育まれてきたのです。

中世日本における唯一の施釉陶器「古瀬戸」は鎌倉期に上級武士に愛されるなど全国に流通し、19世紀初頭から始まる磁器の生産・流通に伴い、陶器と磁器の両方を生産する世界でも稀有な産地として確立してきました。

明治中期から昭和前期にかけて、瀬戸でつくり出されるやきものは、飲食器にとどまらず、便器や瓦、タイル、碇子、ノベルティ、ファインセラミックスなど多種多様な製品が生み出され、瀬戸のものづくりが日本人の生活・文化を支えてきました。

陶磁器産業の隆盛に伴い、瀬戸には多くの人が集まり、窯道具を積み上げて作られた「窯垣」など瀬戸独特の美しい幾何学模様の景観がまちを彩り、「尾張の小江戸」と呼ばれるほど、ものづくり文化が息づく賑わいが創られてきました。一方、やきものづくりとも深い関わりのある里山も、薪となる木材の伐採により禿山になりましたが、人々の手による植林により、豊かな里山として再生させてきました。

千年以上続く歴史の中、ツクリテたちが時代の流行を敏感に感じ取り、イノベーションをくり返し築いてきたまち。それこそが、「瀬戸」です。

2 瀬戸の現状

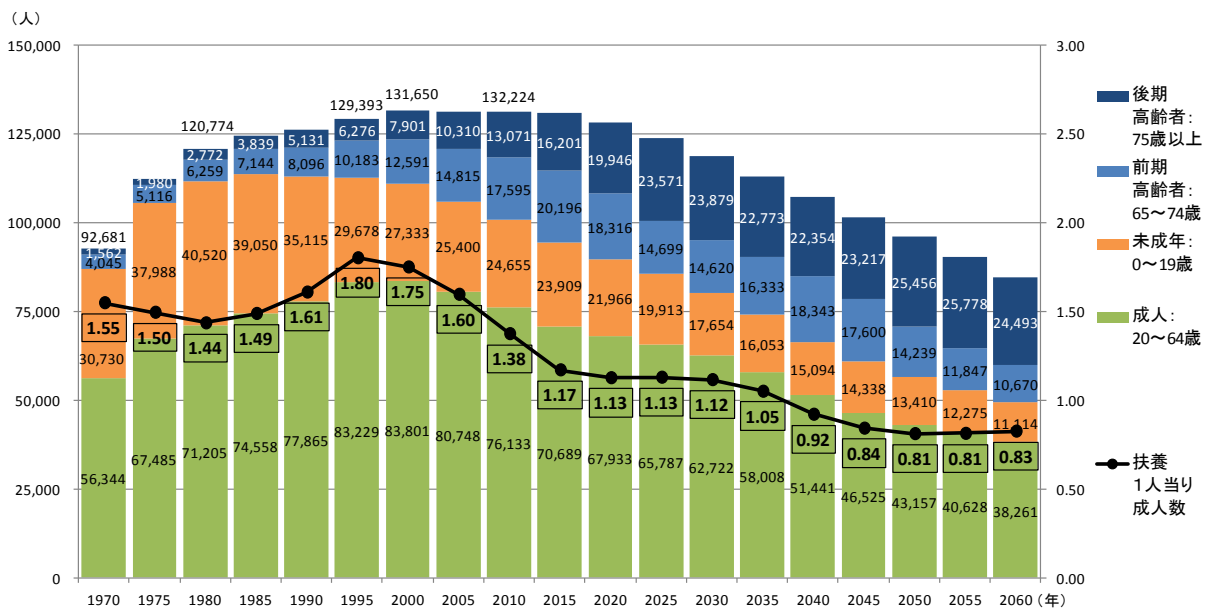
■人口が減少

全国で人口減少が顕在化する中、愛知県では自動車産業をはじめとする好調なものづくり産業や名古屋駅周辺の再開発によるオフィス需要の増加などにより人口が増加していますが、瀬戸市では人口減少が始まっています。

これまで瀬戸市では持ち家取得などに伴う子育て世帯の転入により人口を維持していましたが、近年はその傾向が薄れ、転出超過となったことが大きく影響しています。

今後、人口減少は加速化する見通しにあるとともに、成人一人が支える高齢者や未成年の割合は高まっていくことから、若い世代・子育て世代の転入を増やしていくことが大切になっています。

「瀬戸市」の人口 推移と推計

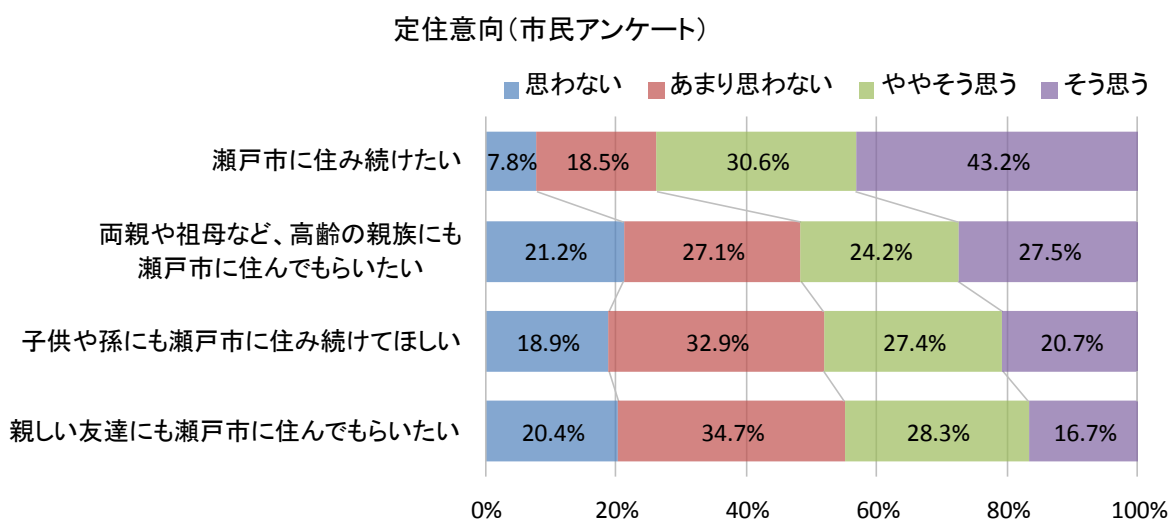


(資料) 瀬戸市人口ビジョン

■ 市民が瀬戸をおすすめできない

市民の7割以上が瀬戸市に住み続けたいと考えている一方で、約5割の人が子供や孫、あるいは親しい友人に対して瀬戸市に住むことをおすすめできないと考えています。

市民自身がおすすめできないようなまちに若い世代・子育て世代が転入したいと考えることは現実的でないことから、市民が誇れるまちに意識を変えていただくことが必要となります。

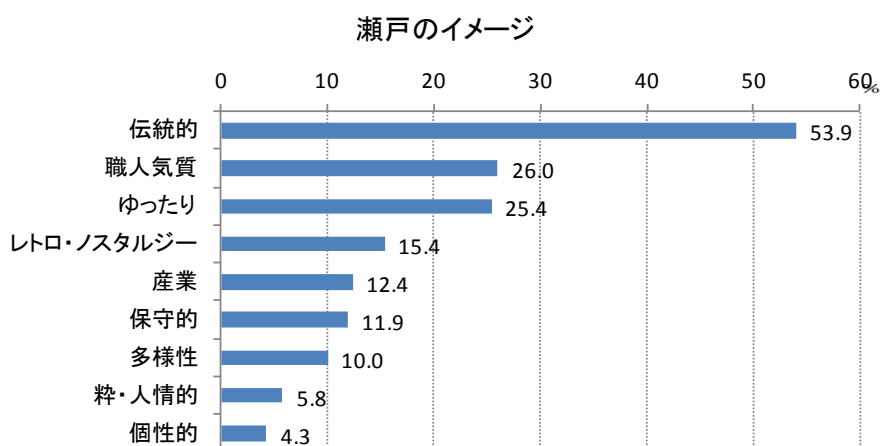


3 瀬戸のイメージ

瀬戸の魅力を再発見するため、市内外で実施したアンケート調査結果や第6次瀬戸市総合計画の策定にあたって実施したタウンミーティング「せと夢・まち未来輪談会」で市民の方からお聞きしたご意見を紹介します。

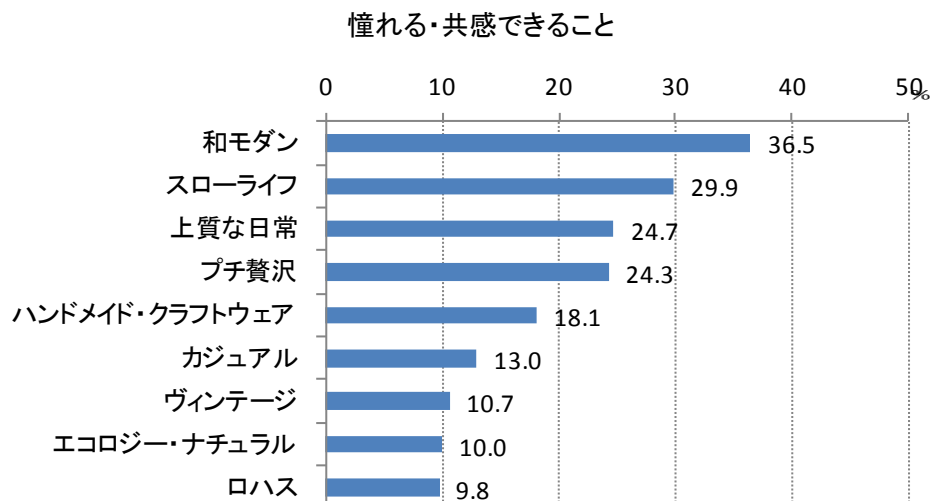
■ 瀬戸焼購入者のイメージ 「伝統的」、「職人氣質」、「ゆったり」

主に名古屋都市圏に住む瀬戸焼購入者は、過半数が瀬戸を「伝統的」とイメージしており、この他、「職人氣質」や「ゆったり」などが上位にあり、市独自の特徴としてとらえています。



(資料) ドームやきものワールド 2016 来場者アンケート (瀬戸焼購入者を対象とした独自調査)

主に名古屋都市圏に住む瀬戸焼購入者が憧れる・共感できることは、和モダンやスローライフ、上質な日常などであり、瀬戸のまちの魅力を強く打ち出すことにより共感を得られる可能性が高いと考えられます。



(資料) ドームやきものワールド 2016 来場者アンケート (瀬戸焼購入者を対象とした独自調査)

■ せともの祭来訪者のイメージ やきものに触れる機会が多い

せともの祭来訪者へのアンケートでは、市外の人が、瀬戸のやきもののみちとしての伝統や、市民も来訪者もやきものに触れる機会が多いことに魅力を感じていることがわかりました。

瀬戸の好きなところ・大事にしたいところ

- ・ 「せともの」のみちとして有名なので、小さい時からせとものに触れる機会があることが素晴らしい。大事にしてほしい（刈谷市・30歳・女性）
- ・ 子どもでも遊べたり、やきものに触れることができて楽しい（春日井市・8歳・男性）
- ・ 陶磁器産業とそのみち並み（金沢市・45歳・男性）
- ・ せともの祭があるところ。大事にしたいのは「やきもの」の伝統（名古屋市・11歳・女性）
- ・ 自然が多くて、子どもを遊ばせられるところが多いこと。市民活動が活発なところもおすすめ（尾張旭市・49歳・女性）

（資料）せともの祭 2016 来訪者アンケート（せとまちブランディングWGによる独自調査）

せとまちフェスタ来場者へのアンケートでは、「いもうどん」や「おこしもの」、「瀬戸弁」など一般的には脚光を浴びていない魅力資源を回答してくれる市民の方がいました。

瀬戸の魅力

- 【まちなみ・雰囲気】瀬戸川沿いの情緒、こじんまりしている、品がある
- 【食】ごも飯、瀬戸焼そば、焼肉・ホルモン、いもうどん、おこしもの、鬼まんじゅう
- 【自然】都会の近くなのに自然がいっぱい、岩屋堂
- 【せともの】生まれたときからある「やきもの文化」、瀬戸の器が大好き、セトノベルティ
- 【ひと】瀬戸の魅力は何と言っても人、人がやさしい、何事にもやる気のある人がいっぱいいる
- 【その他】瀬戸弁がとてもあたたかい、招き猫メイク、せともの祭、せと陶祖まつり

（資料）せとまちフェスタ来場者アンケート（せとまちブランディングWGによる独自調査）

タウンミーティング「せと夢・まち未来輪談会」では、市民の皆さんから転入者を増やす必要性や、魅力的なまちにするための方策など第6次瀬戸市総合計画の策定に向けて多数の前向きなご意見・ご提案をいただきました。

市民の意見

- ・ 瀬戸焼を中心とした観光、体験プログラムの充実、やきもの散歩道のルート検討
- ・ 転入者を増やす方策が必要、魅力向上
- ・ 陶芸家の育成（若手作家が拠点を持てる）
- ・ おしゃれな店が少ない（若者が集まれる店が無い）
- ・ 空き家の活用（地域の交流の場、陶芸関連者の長期滞在、観光への活用、子育て世帯の居住場所）
- ・ 特色ある教育での魅力づくり（キャリア教育、陶芸・誰でもロクロを回せる、まちを愛せる教育）
- ・ 農業担い手育成（若い人の新しい農業スタイルの支援、子どもの農業体験）

（資料）タウンミーティング「せと夢・まち未来輪談会」における市民意見

また、市職員に瀬戸の魅力に関してコメントを収集したところ、瀬戸がやきものまちであることや歴史、文化、自然、まちの雰囲気など瀬戸のまちに誇りを持ち、瀬戸での生活に魅力を感じていることがわかりました。

■ 市民のイメージ（インタビューキャラバン） 人が魅力



瀬戸の戸は「とびら」の戸 — 林ともみ（司会、ラジオパーソナリティー）

瀬戸は人と人とのつながり、市民力、一人一人の力が強いまちだと思います。

瀬戸の戸は「とびら」の戸。市民の方でも、まだ見ていない瀬戸がたくさんあると思うので、「とびら」を開けて瀬戸の魅力を発見して欲しいです。



どんな“やきもの”でも作れる — 斎藤貴子（まち結ぶコーディネーター）

日本の暮らしの中に必ず“瀬戸”があるんですよ。

茶の湯やセラミック、時代に合わせたつくり方に対応できた瀬戸はすごいです。

それだけの技術、材料、知識があったということで、瀬戸ではなんでもやきものが作れます。それは瀬戸にしかできないことでしょう。



ツクリテの熱量が直に伝わるまち — 新井一平（WEB マーケター）

瀬戸ではツクリテとツカイテの距離がすごく近いのが良いですね。

東京にいと誰が作って、どうやって自分のところへ来たのかわかりません。

自分の器も“せともん”ですが、ツクリテとの距離感が近いので熱量が直に伝わります。



自由な空気 — 西牟田早苗（飲食業）

瀬戸の魅力は人ですね。よそ者も新しいことを始める人も受け容れてくれます。

瀬戸には宝物がたくさんあって、それらを上手に見せればもっと人を呼び込むことができると思います。

瀬戸に来る人、興味を持つ人が増えれば、空き家を活かす道も広がるでしょう。



みんなでおもてなしできるまちに — 若杉スエ（観光ボランティア）

市民ひとりひとりが瀬戸について学んで、来訪者に瀬戸を紹介できるまちになったら、「瀬戸はすごい」と言ってもらえるでしょう。

そのためなら何でもお手伝いしますよ。頑張ります。



瀬戸のことをもっと好きになってほしい — 加藤恬（郷土史研究家）

定光寺は歴代尾張徳川家の精神的な支柱となった重要な廟で、瀬戸の二大巨人は陶祖・加藤藤四郎と磁祖・加藤民吉なんです。

文化遺産がたくさん集まった瀬戸のまちを知ることで、愛着を持って瀬戸を大事にしてもらいたいです。

妻からは春日井市に住んでいても心は年中、瀬戸のことを考えていると言われます。